

キーワード 支えあい体制づくり、ICT 活用、テレビ電話、健康サポート隊

## テレビ電話・IP 告知端末を活用した健康管理・見守りシステム

北海道 喜茂別町・島牧村・ニセコ町・積丹町

### 【この事例の特徴】

個々のバイタルデータと歩数データを福祉センターから送信し、データを踏まえて健康管理士や医師がテレビ電話で健康指導等を実施する。また、IP告知端末を利用した安否確認を行っている。健康相談や見守りの体制構築にあたっては、高齢者を主体とした「健康サポート隊」が住民の声かけなどの役割を担い、高齢者自身が互いに励ます仕組みを構築している。

### 地域概要

総人口※1:	11,348 人
65 歳以上人口※1:	3,802 人 (33.5%)
75 歳以上人口※1:	2,162 人 (19.1%)
要介護要支援認定者数※2:	3,425 人
第 5 期介護保険料※2:	4,150 円



※1 喜茂別町・島牧村・ニセコ町・積丹町の 4 自治体の合計

※2 喜茂別町・島牧村・ニセコ町・積丹町を含む 16 の自治体から構成される後志広域連合(総人口 60,377 人、65 歳以上 18,181 人)の値

### 背景・経緯

#### 【背景】

- 喜茂別町は、医療・介護費の高騰や医療過疎、少子高齢化など、過疎地域の典型的な課題を多く抱えている。山岳丘陵地で行政区域が広く、隣家同士が密接していないこともあり、独居高齢者が増えることで、緊急時の対応が遅れることも課題となっていた。
- 一方で、地域の高齢者の「居場所と出番」がなくなり、高齢者の社会における役割がなくなっている。雪の多い気候や車主体の移動手段のため、外出する機会が減少し、身体を動かす機会を逸しており、健康に影響を及ぼしている。
- ICT を活用して高齢者を対象として健康相談や見守りの環境をつくろうとしたが、単にケアや支援の仕組みを手厚くするのでは、経費だけが重くのしかかってしまう。そこで、高齢者自身が互いに励まし、誘いあって運動をして、食生活を改善し、できる範囲で周りの手助けをし、「自らが地域を守る」という役割を果たすことで、生き甲斐を得ることができないかと考えた。
- 喜茂別町は、事業所などを含め町の 99% 以上に光回線が敷設されており、併せてテレビ電話が設置されている。また、喜茂別町・積丹町では IP 告知端末が整備されている。町からのお知らせや緊急通報などで日常的に端末を利用しており、町民の ICT スキルも一定水準以上であることから、これらのインフラを活用した。
- **予算等**: 内閣府で決定し、北海道の補助金「北海道新しい公共支援事業モデル事業補助金」として交付(42,500 千円)

## 【目的・目標】

- 地域の高齢者に「居場所と出番」を創出し、自らが地域の課題解決に資することができる体制をつくる。
- 積極的に社会参加を促しながら、住民の健康に積極的に関われる環境を醸成する。
- 人と人とがコミュニケーションを育むことで、支えあいながら生きがいを見出していけるようにする。

## 【取り組み内容と方法】

### 【取り組み方法】

- 喜茂別町、積丹町、ニセコ町、島牧村において、遠隔健康相談システム、高齢者見守りシステム、介護予防、コールセンターにより、高齢者を支援する応援の輪をつくった。

		島牧村	ニセコ町	積丹町	喜茂別町
遠隔健康相談システム		20人	30人	20人	20人
高齢者見守りシステム	高齢者見守りシステム	5軒	—	15軒	5軒
	IP告知端末活用見守りシステム (平成24年度事業)	—	—	◎	◎
介護予防		—	◎	—	—
コールセンター(平成24年度事業)		—	—	◎	◎

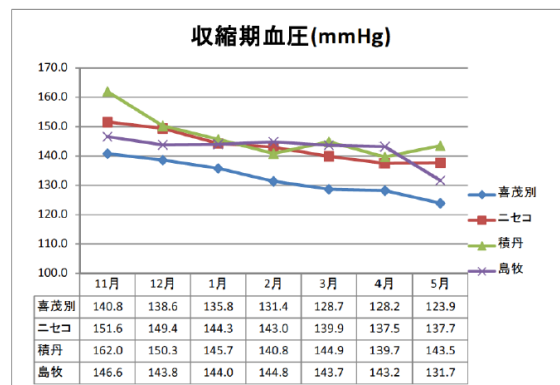
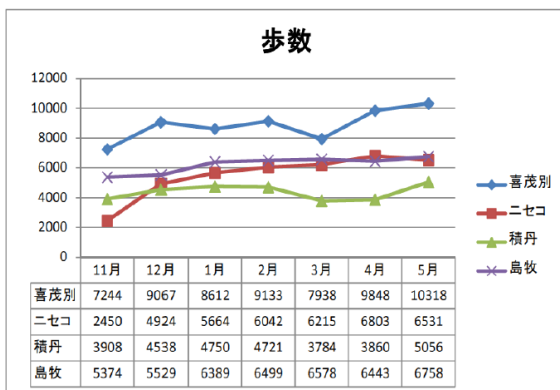
- このうち喜茂別町では町内普及率 99%のインフラであるテレビ電話を軸として、遠隔健康相談、高齢者見守りシステム、コールセンターを実施している。喜茂別町では遠隔健康相談に20名が参加しているが、これは喜茂別町ふれあい福祉センターに測定データを送信できる端末を設置して、日々のバイタルデータ(血圧、体重、体温)と歩数系に伴う歩数を管理するサービスである。また、その経緯を分析するために、健康管理士が3か月に1度、医師が1年に1度採血結果も参考にしてテレビ電話を使って健康指導等を行っている。
- 喜茂別町では地域の高齢者による「健康サポート隊」が、取り組みを支援している。住民への声かけや医師遠隔診断のスケジュール管理など、「居場所と出番」を創出し、ケアされる立場でなくケアする立場で住民の健康に積極的に関わるという主旨で活動している。
- IP告知端末が整備されている喜茂別町と積丹町では、IP告知端末を利用した健康相談や見守りを実施している。現在喜茂別町では、月曜日から木曜日の4日間で120名以上の高齢者に電話をかけ、安否確認や相談等の見守りを実施している。



## 取り組みの成果と課題

### 【成果】

- 事業参加者からは、意識や行動の変化などの声が聞かれた。参加者の声（抜粋）は以下の通り。
  - ◇ 歩数計をつけてから、歩くことを意識するようになりました。また、よく噛むことも気をつけるようになりました。(62歳女性)
  - ◇ 先生からは間食を止めることと、噛むことを言われました。習慣を変えることは難しかったですが、あれ以来ちゃんと守って20回噛んでゆっくりと食べています。運動も6千歩くらい歩いています。テレビを観ながら足踏みもしています。(65歳男性)
  - ◇ 1日2万歩弱は歩いています。子どもに頼らずに、自分を自立させるために、身体には気をつけています。先生にも誉められました。誰かに誉められると嬉しいです。(69歳女性、健康サポート隊)
- 「健康サポート隊」のメンバーからは、一人ではなかなか続かないことでも、皆で集まってやることで楽しくできたという意見もあった。「健康サポート隊」がコミュニティの活性化につながっている。
- 事業参加者における歩数の増加、血圧の低下などの効果が見られる。



### 【課題】

- 岩手県遠野市の事例を参考に事業内容を考えたが、遠野市は利用者からの利用料を徴収している。今後、事業として継続していくためには、利用者からの利用料徴収も考えていくべき課題であると捉えている。
- 利用料徴収を行う場合、事業として成立するように、利用者を増やすことも必要である。各町村で利用者を増やし、高齢者のみならず生活習慣病予備軍である年齢層も視野に入れて、幅広い年齢層で実施されるようにしていく必要がある。
- 現在の事業主体は、4町村とも社会福祉協議会であるが、今後 NPO の組織化を視野に入れ、事業全般を担えるよう考えていく必要を感じている。

## 参考 URL、連絡先

- 喜茂別町 地域包括支援センター 0136-31-2940
- 喜茂別町 関連報告書(平成24年6月)  
[http://www.town.kimobetsu.hokkaido.jp/pdf/kenkou\\_susin/social\\_innovation\\_model.pdf](http://www.town.kimobetsu.hokkaido.jp/pdf/kenkou_susin/social_innovation_model.pdf)
- 総務省 関連報告書 [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000237105.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000237105.pdf)